地震・津波から90日

被災地の子どもたちにこれだけの支援が届きました。

	インドネシア	スリランカ	インド	ミャンマー	モルディブ	タイ	ソマリア	マレーシア
学校セットが届いた子どもたち	301,950人	240,000人	71,444人	30,000人	16,000人	141,000人	589人	被災地の12校が再開
学校に戻った子どもたちの割合	90%	85%	(未集計)	(未集計)	95%	95%	(未集計)	(未集計)
レクリエーションキットが届いた子どもたち	(未集計)	81,000人	40,760人	42,400人	24,000人	(未集計)	589人	(未集計)
ビタミンAの投与を受けた子どもたち	238,384人	(未集計)	107,857人	(未集計)	35,000人	(未集計)	1,728人	13の避難所で5,200人分の乳幼児食提供
予防接種を受けた子どもたち	238,384人	(未集計)	109,179人	(未集計)	11,000人	(未集計)	1,728人	(未集計)
簡易トイレが届いた人々(1トイレ/20人使用として)	20万人	87,160人	267,000人	2,050家族	(未集計)	2,000人	(未集計)	13の避難所で5,200人分の衛生キットを配布
安全な水が届いた人々(1日1人/15ℓ使用として)	40,000人	72,500人	69万人	15,000人	10万人	2,000家族	4,500人	(未集計)
保健キットが届いた人々	55,000人	15万人	(未集計)	(未集計)	(未集計)	(未集計)	(未集計)	(未集計)

※ 各国の状況が異なるため、報告内容も各国ごとに異なっています。上記の内容が支援のすべてではありません。
※ 上記は地震・津波被害に対するこの3ヵ月間の緊急・復興支援の内容であり、通常実施されている支援活動等は含まれておりません。

インドネシアでは90%の子どもたちが学校に戻りました。しかし、多くの学校がいまだテントや仮校舎で、机や教材も充分にそろっていません。
学校では今、傷ついた子どもたちの心のケアが続けられています。学校は子どもたちの心を癒す最善の場所です。

ベッカム選手がユニセフを激励に！

世界的なサッカープレーヤーで、ユニセフ親善大使でもあるデビッド・ベッカム選手。去る1月10日、デンマーク・コペンハーゲンにあるユニセフ支援物資センターを訪れ、津波の被害にあった子どもたちのために不眠不休で発送作業を行っているユニセフ職員を激励しました。子どもたちに届けられたレクリエーションキットの中にはサッカーボールも入っています。

モルディブでも子どもたちに予防接種とビタミンAの投与が行われました。被災地では引き続き予防接種の実施と、感染症への警戒が必要です。

スリランカには7万2500人分の安全な水、15万人分の保健キットが届けられました。しかし、被災地では井戸やトイレなどがまだ不足しています。

ユニセフはこれからも
被災地の子どもたちを
支えていきます。
希望を持って
生きていける日まで ―

◆ 去る3月28日スマトラ沖で再びマグニチュード8.7の大地震が起こり、多くの被害が出ました。ユニセフでは、この被害に対しても支援を続けています。現在、世界で緊急事態下にある国と地域は30以上にのぼります。インドネシア、スリランカでは今回の津波の被害にあう以前から内戦による緊張が高まり、子どもたちは危機に直面していました。また、緊急事態にある国の3分の2が集中しているアフリカでは、「世界最悪の人道危機」にさらされているスーダン・ダルフールの子どもたちをはじめ、ウガンダ、ソマリア、ブルンジ、コンゴ民主共和国、シエラレオネなど、多くの国々で子どもが犠牲になっています。子どもたちを守るユニセフの活動にこれからもみなさまのご支援をお願いいたします。

「ユニセフ・マンスリーサポート・プログラム」にぜひご参加ください。
毎月ご任意の一定額を、自動引き落とし(クレジットカードあるいは銀行・郵便局口座)によって募金していただく方法です。右記のフリーダイアルで資料をご請求ください。

(財) 日本ユニセフ協会
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
TEL: フリーダイヤル 0120-88-1052(ハハ ト コ ニ)
ホームページ: www.unicef.or.jp メール: webbokin@unicef.or.jp
郵便振込: 口座番号 00190-5-31000 口座名義 (財)日本ユニセフ協会

unicef

Left to Right/Top to Bottom COVER PAGE: ©UNICEF/HQ05-0318/Josh Estey, ©UNICEF/HQ05-0203/Tom Pietrasik, ©UNICEF/HQ05-0202/Tom Pietrasik, ©UNICEF/HQ05-0303/Josh Estey, ©UNICEF/HQ05-0065/Pallava Bagla, ©UNICEF/HQ05-0055/Pallava Bagla, ©UNICEF Somalia/200 5/Mulala, ©UNICEF/HQ05-0147/Jim Holmes, ©UNICEF/HQ05-0274/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF/HQ05-0181/Shehzad Noorani, ©UNICEF/HQ05-0128/Palani Mohan INSIDE: ©UNICEF/HQ05-0254/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF Sri Lanka/2005, ©UNICEF/05-0063/Pallava Bagla, ©UNICEF/HQ05-0158/Sarah Crowe, ©UNICEF/05-0123/Steve Nettleton, ©UNICEF/HQ05-0157/Sarah Crowe, ©UNICEF/05-0140/Jim Holmes, ©UNICEF/HQ05-0322/Josh Estey, ©UNICEF/HQ05-0323/Josh Estey, ©UNICEF/HQ05-0280/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF/HQ05-0281/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF/HQ05-0282/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF/Moldive, ©UNICEF/Moldive, ©UNICEF/HQ05-0283/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF/Moldive, ©UNICEF/HQ05-0357/Giacomo Pirozzi BACK PAGE: ©UNICEF/HQ05-0319/Josh Estey, ©UNICEF/HQ05-0324/Josh Estey, ©UNICEF/HQ05-0082/John McConnico, ©UNICEF/HQ05-0081/John McC0nnico, ©UNICEF/HQ05-0253/Giacomo Pirozzi, ©UNICEF/HQ05-0155/Kathryn Grusovin, ©UNICEF/HQ05-0128/Palani Mohan All Illustrations©2005 Max Fuji

ユニセフ 緊急 子ども支援レポート
SPECIAL ISSUE / 2005 SPRING

ユニセフ緊急募金

ユニセフ スマトラ沖地震・津波緊急募金へのご協力ありがとうございました。

やっと笑顔が戻ってきました！

1月に学校が再開されたインドネシア。久しぶりに友だちと会ったら笑顔になりました。

悲しいこと、つらいことがたくさんありました。でも、みなさまに支えられ、子どもたちは少しずつ元気になってきています。

昨年末、インド洋沿岸を襲い、28万人もの尊い命を奪った大津波。あれから4ヵ月がたとうとしています。復興作業が続けられている被災地から、子どもたちのようすをお伝えします。みなさまのご支援によって勇気づけられた大勢の子どもたちが、今立ち直ろうと一生懸命がんばっています。

私たちにも、届いたよ！

1月26日、スリランカ・ガレ南部の学校にも「スクール・イン・ア・ボックス」が届きました。箱からユニセフのロゴがついた練習帳を出して、みんなに配りました。スリランカでは24万人の子どもが教材を受け取りました。

とどいたよ、届いたよ！

インドネシアの小学校に、待ちに待ったユニセフのトラックがやってきました。「教材が届いたよー」校庭に走り出て、みんな大よろこび！

総額 2,799,430,567円* ＊2005年3月25日 現在

昨年12月27日から開始した「スマトラ沖地震・津波緊急募金」にあたたかいご支援をお寄せいただきありがとうございました。お寄せいただいた募金は今、被災地の子どもたちのために役立てられています。多くのみなさまのご協力に心からお礼を申しあげます。

どうしてるかな、被災地の子どもたち

助けてくれてありがとう（インドより）

もうなくさない、ノートとえんぴつ！（ソマリアより）

お家が流されちゃった…（スリランカより）

痛いよー、でも、がまん、がまん（インドネシアより）

今でもこわい夢を見ます（モルディブより）

やっぱり学校はたのしい！（タイより）

unicef

スマトラ沖地震・津波：つらい体験を背負って、子どもたちは今…

みなさまのご支援があったからこそ

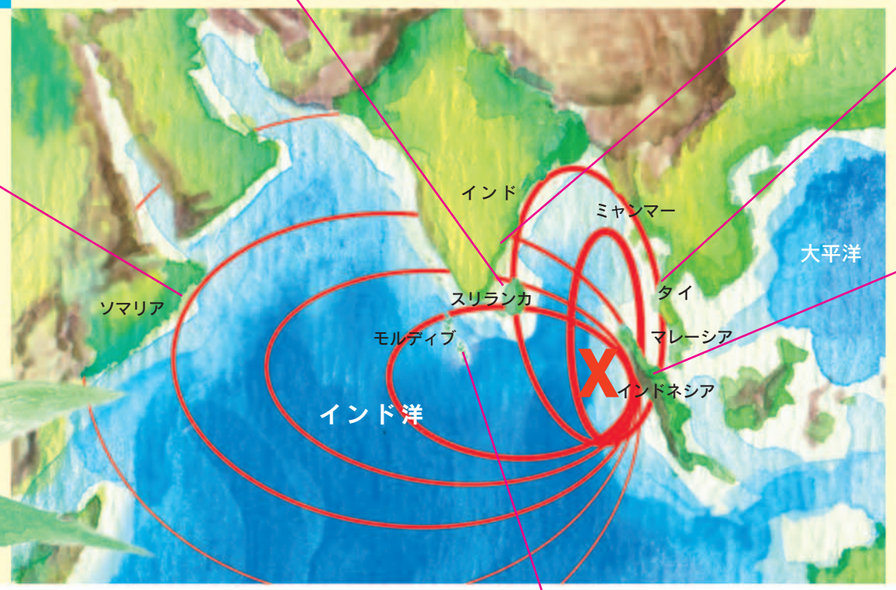
ユニセフは災害直後から現地で救援活動を開始、けがや病気の手当、安全な飲み水の供給、衛生環境の整備、乳幼児への栄養補給、はしかやポリオ、コレラなど感染症の予防に奔走しました。こうした努力の甲斐あって、当初懸念されていた感染症の流行は、現在まで何とかくい止めることができています。

ポリオワクチンの投与を受けるモルディブ・クダブバドゥ島の赤ちゃん。モルディブでは、1万人以上の子どもたちが予防接種を受けました。

スタッフだより　スリランカから　ボ・ビクトル・ニールンド（Bo Victor Nylund／ユニセフ職員）

一人ひとりに会って、話を聞いて、記録をつくって

「お母さんは津波で海にさらわれました。お父さんは4年前に亡くなりました。これまでも貧しかったし、これからどうしたらいいかわかりません…」耳が不自由なため、手話で話す14歳のスバ。こうした弱い立場におかれた子どもを標的に、やさしい言葉をかけ、たくみに子どもを他国へ連れ出そうとする斡旋業者がいます。スリランカではこの津波で、5000人近い子どもが両親または片方の親を失ってしまいました。ユニセフは子どもたちを人身売買や性的搾取、暴力などから守るために、パートナーと協力し子どもの保護に取り組んでいます。子ども一人ひとりの記録をつくり、必要な支援を行い、生きる希望と生活力を身につけていけるよう長期的な活動を進めています。



「きれいな水があって、本当に助かりました！」

ソマリアのハフン村では津波で井戸に海水や泥が流れ込み、使えなくなってしまいました。ユニセフはただちに、ポンプで井戸から海水や泥をくみ上げる作業をスタート。井戸が使えるようになるまで数週間にわたり、92km離れた給水所から毎日水を運び続けました。「ユニセフがきれいな水を運んでくれなかったら、この子も下痢になったりコレラにかかっていたかもしれません。浄水剤、石けん、蚊帳なども支給され、予防接種もしてもらったんですよ」と、避難生活を続けている母親は笑顔を見せてくれました。

半数以上の家が全・半壊したハフン村。子どもたちを1日も早く学校に戻そうと、ユニセフや村人たちが力を合わせて仮設校舎をつくりました。子どもたちは今日から登校！配られたノートを大事そうにかかえてうれしそうです。

本当に多くのご協力ありがとうございました。

ORSがなかったら、今ごろは…

インドの避難所にいた赤ちゃん。ひどい下痢になってしまいました。もし、ユニセフから届いたORS（経口補水塩）や栄養補助食がなかったら、今ごろは…。災害後直ちにユニセフがインド国内で提供したORSは20万袋。多くの子どもの命が助かりました。

「楽しいことをいっぱい考えましょう！」

「みんなの願いごとがいっぱい実る木を作りましょう。」先生に促されて、自分の描いた絵をはり付ける子どもたち。これは「幸せの木」と呼ばれるトラウマ克服プログラムのひとつです。学校のような建物や、お母さんの姿を描いた絵もあります。津波で母親と妹を失ったタイの11歳の少女ウサは「今もつらいです。お父さんだってつらいのに、私のために明るくふるまっています。お母さんを思い出すと涙がとまりません。だけど、強くならなくっちゃ…」それぞれの願いをこめてはり終えた子どもたちの表情は、少し穏やかになっていました。

「まだ見つかりませんか？」

インドネシアでは急きょ20カ所に家族捜索センターを設けました。ここには毎日大勢の親が我が子を探しにやってきます。「隣町のセンターに同名のお子さんが保護されています。確認を取ってみましょう。」このようにして運良く再会を果たした家族がいる一方、混乱の中で、密かに連れ去られてしまう子どももいるため、ユニセフは保護が必要な子どもの登録を急いでいます。

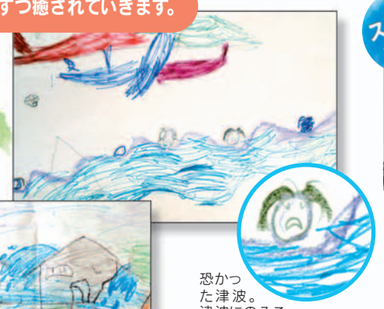
インドネシアのアチェでは、150人近い子どもが木の下に集まって「心を癒す青空教室」。ユニセフから届いたアクティビティキットを使って絵を描いたり、歌ったり、踊ったりで、みんなで大笑い。楽しいプログラムで一瞬だけでも津波のことが忘れられます。

モルディブの子どもたちの絵：つらい体験を絵に描くことで、子どもたちの心の傷が少しずつ癒されていきます。

山みたいに大きな波がみるみる押し寄せてきて、住んでいた場所があっという間に海になりました。水に浸かった家や木、今にも倒れそうなヤシの木。人もドアもドラム缶もみんな流されてしまいました。木にかじりついて助かった人もいました。

屋根に登って助かった自分。「赤」はしばしば強い感情やストレスを表わし、「黒」は恐怖を表わします。

目の前で木が倒れ、家が壊れ、瞬時にすべてがのみこまれ水に浸かってしまいました。



恐かった津波。津波にのみこまれた人の表情に恐怖が見えます。5歳の子が描きました。

スタッフだより　モルディブから　近藤 智春（こんどう・ちはる／ユニセフ職員）

マディフシ島の開校式はカラフルでした

待ち遠しかった学校再開の日。あちこち修復され、真新しいタイルがはられた校舎に、おそろいのシャツを着た子どもたちが集まってきます。教室の壁を飾るのは、色とりどりの絵や学習教材。つらい体験をした子どもたちを元気づけようと、この日のために先生方が飾りつけました。まだ椅子も机も充分にそろっておらず、床に直接座っての開校式となりましたが、懐かしい教室、先生、友だちに囲まれて、子どもたちはとても安心したようす。津波以来ほとんど口をきかなくなってしまった子どもも、この日は笑顔を見せてくれました。この子たち全員が、津波の恐怖を乗り越えて前向きに生きていける日まで ― ユニセフがすることはまだたくさんあると実感した1日でした。

マディフシ島では、1005人の島民の半数近くが津波に家を破壊されました。

ユニセフの活動はこれからも続きます。

unicef